

- 2面 人事行政の運営状況
3面 総合庁舎中庭駐車場の有料化、情報ポックスほか
4面 豪雨対策計画改定案・耐震改修促進計画改定案・祐天寺駅周辺地区整備計画案への意見募集、年末年始の業務案内

No.2088

令和2年
(2020年) 12/15

毎月5・15・25日発行

目黒区
ホームページ

めぐら日区報

特集
認知症

みんななりうる
だから
みんなで支える

65歳以上の5人に1人が認知症になる。5年後には、そんな未来が来ると予測されています。認知症は、老化によって起こる単なる「物忘れ」ではなく、さまざまな原因で脳の働きが低下し、日常生活に支障をきたすようになる状態です。「認知症の人」がいるのではなく、自分も家族も友人も、誰でもなる可能性がある、それが認知症です。

福祉総合課認知症施策推進係（☎5722-9702、Fax: 5722-9062）

広がっていますサポートの輪

区は認知症になっても住み慣れた地域で暮らせるまちを目指し、認知症サポーターを養成しています。認知症サポーターは、認知症を正しく理解し、できる範囲で認知症のかたや家族を見守る支援者です。現在、感染症対策のため、講座は中止していますが、接し方を知ることで、できことがあります（右記事参照）。

認知症の人と関わる機会が多いスーパーや金融機関などでも、サポートの輪が広がっています。認知症の理解と支援を社内で広めている、東急ストアの取り組みを伺いました。

東急ストア中目黒本店の取り組み

3年ほど前に、ある店舗で万引きがあり、警察に相談したのですが、後になって重度の認知症のかただったと分かりました。認知症だと分かっていれば、もっと違う対応ができるのではないかと思ったことが、会社として認知症への取り組みを始めるきっかけとなりました。

認知症サポーターの養成は、区の講座を利用していましたが、さらに従業員の理解を深めるため、私を含めた4名の社員が講師の資格を取得して、養成講座を開催しています。

高齢のかたが同じ物をいくつも買われ、払い戻しに来られることがあります。認知症の知識がないと、「何が目的なのだろう」と思いがちだったことが、受講後は「認知症のかたかもしれない」と気づくことで適切な対応ができ、きちんとご自宅までお帰りいただけます。これが一番大事なことだと思っています。

今後も区と連携しながら、養成講座やイベントを開催することで、認知症への意識・関心が地域に広がればよいと思います。



▲株式会社東急ストアお客様相談室長
磯卓也さん
「養成講座では、学んだことが現場で生かせるよう、手作りテキストなど工夫を凝らしています」



※写真はイメージです

みんなで支える 認知症安心ガイドブック

認知症について詳しくまとめた冊子です。
総合庁舎本館2階福祉総合課、地域包括支援センターなどで配布するほか、ホームページ（右上コード）でご覧になれます。



認知症の人と接する 4つのポイント



①驚かせない

相手の視野に入って話し掛けましょう。後ろから声を掛けられると、パニックになってしまうことがあります。目を見て、優しい口調で話すことが大切です。

②急がせない

認知症の人は、複数のことを同時に理解することが苦手です。せかすことは逆効果です。余裕をもって、相手の反応や話をうかがい、ゆっくり対応しましょう。

③自尊心を大切に

できないからやらせないではなく、本人のやりたい気持ちを尊重して見守りましょう。間違いを否定したり、失敗をしきたりせず、自尊心を大切に接することが必要です。

④相談する

自分や身近な人が、物忘れがひどくなったり、性格が明らかに変わったなど、認知症かもと思ったときは、地域包括支援センターへご相談ください。

地域包括支援センター

- 北部**（大橋1-5-1 クロスエアタワー9階、☎5428-6891、
Fax: 3496-5215）
東部（総合庁舎本館1階、☎5724-8030、Fax: 3715-1076）
中央（中央町2-9-13 食販ビル内、☎5724-8066、Fax: 5722-
9803）
南部（碑文谷1-18-14 碑小学校内南西側、☎5724-8033、
Fax: 3719-2031）
西部（柿の木坂1-28-10、☎5701-7244、Fax: 3723-3432）